

## 第4回委員会の振り返り

### 【委員からの主なご意見】

- ①施設の運営体制について、市外から福島市にユーザーを誘致できる力量がある者に任せるべき。(民間会社等1社に任せるか、複数の民間会社で構成された組織に任せるかなどを決めていくことが必要)
- ②指定管理者等の施設運営者のみが施設や利用者の情報を管理する体制は望ましくない。市と関係機関、施設運営者が情報を交換・共有し、誘致戦略を協議できる体制とすべき。民間に任せきりにするのではなく、きちんと行政が関与する意識が重要。
- ③適正な施設規模を想定する場合、コンベンションの需要や興行についてもマーケティングを含め調査・検討が必要。
- ④運営体制については、指定管理者制度ありきではなく、行政の施設運営への関与について様々な意見を聞きながら検討してほしい。
- ⑤施設コンセプトを実現するための視点として、特に効率的で持続可能な運営を図ることを重視すべき。
- ⑥エリア全体で市民や来訪者にとって魅力的な場所とすることが重要であり、共用空間の果たす役割が大きいことから、その利活用について様々な関係者が連携を図ることが重要。
- ⑦市民が他人ごとではなく自分ごとで施設を利用していく考えが重要。大学生等の若い人の視点をまちづくりに活用していくことは有効である。
- ⑧今後も市民の声を聴いていく機会を設けてほしい。
- ⑨本事業がまちづくりの一環であることを忘れず、イメージの共有や情報の受発信を丁寧にしていくことが必要。
- ⑩大ホールの客席数を変動させることは可能であるが、持続可能な規模設定については、客席数だけを重視するべきではなく、練習室等を含めた施設全体の活動イメージを考える必要がある。運営についても、運営者がどのような組織に属しているかが重要であり、早めに運営者を決めていく必要がある。
- ⑪賑わいづくりは施設単体で行うものではなく、再開発に携わる人を含め、まち全体として盛り上げていく必要がある。